

三浦学苑高等学校における部活動の方針

本方針策定の趣旨等

- 部活動は、共通の興味・関心のある生徒たちの自主的・自発的な参加により組織され行われるもので、個性の伸長、自主性や協調性、責任感、連帯感などが養われ、互いに協力し友情を深めるといった好ましい人間関係の形成にも資するものである。また、学校教育の一環として、教育課程との関連を図りながら行われなければならない。
- この様に教育的価値の高い部活動の在り方について、スポーツ障害やバーンアウトの予防、生徒のバランスのとれた生活と成長の確保など様々な観点に立ち、併せて教員の働き方改革にも資するよう、平成30年3月にスポーツ庁において、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が、文化庁では平成30年12月に「文化部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」が策定された。県では、国のガイドラインを受け、神奈川県としての「部活動の在り方に関する方針」が策定された。
- 本校でも、国のガイドラインに則り、県の方針を参考に、本方針を策定した。
- 本方針では、運動部活動と文化部活動の区別をすることなく、適用することとした。

1. 適切な運営のための体制整備

(1) 部活動の方針の策定等

- ア 本校の教育目標等を踏まえ、学校組織全体で部活動の指導の目標や運営の方針を検討し作成する。
- イ 顧問の教員及び部活動指導員（コーチ）（以下「部活動顧問」という）は、適切な活動を推進するため、目標や運営の方針等を踏まえ年間指導計画を作成し、校長に提出する。
- ウ 活動時間や場所、年間の経費等については、保護者・生徒に明示し理解を得ること。その際、保護者説明会等を設けるなど、適切な機会を捉えて説明することが望ましい。

(2) 指導・運営に係る体制の構築

- ア 部活動は、部活動顧問の積極的な取組に支えられるところが大きいから、学校教育の一環として行われることから、各部活動の運営、指導は校長の適切な管理・指導のもとで行うこと。
- イ 部活動顧問は複数名配置することが望ましく、部活動顧問間や部活動コーチ、と役割を分担して、生徒の活動が充実するよう努めること。
- ウ 日常の運営、指導に関して、校長の指導・監督のもと、部活動顧問の間で意見交換を行い、指導の内容や方法について研究するとともに、情報共有を図るよう

努めること。

エ 部活動顧問には、部の運営や活動に係る部員の生活指導、技術指導など、多岐にわたる役割があることを踏まえ、指導方針や部の目標を明確にし、その達成のために生徒を支援すること。

オ 年間指導計画及び活動実績の確認等により、各部活動の活動状況を把握し、生徒が安全に部活動を行い、また、教員の負担が過度にならないように、必要に応じて指導・是正を行うこと。

2. 合理的でかつ効率的・効果的な活動の推進のための取組

部活動顧問は、過去の実績や経験によるものだけではなく、科学的かつ合理的理論に基づいて指導することが求められる。また、生徒の発達段階、技術レベルに合わせた指導により、卒業後も活動を継続できるよう、心身ともに安全・安心な活動として留意することが重要である。

さらに、生徒それぞれの興味・関心や体力、技術等に応じて、自主的・自発的に部活動を楽しめるような環境を整備し、けがや事故の未然防止や熱中症、光化学スモッグ等の事故防止に努めるとともに、体罰・ハラスメントを根絶することが重要である。

3. 適切な休養日の設定

部活動においては、成長期にある生徒のスポーツ障害やバーンアウトを予防するとともに、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるように設定する。

設定に当たって、過度な練習が生徒の心身に負担を与え、部活動以外の様々な活動に参加する機会を奪うことや、特に運動部活動については、スポーツ医・科学の観点からジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究で、休養日について示されていることを考慮する。

上記のことを踏まえ、適切な休養日等の設定については、各部活動の実情に合わせ柔軟に設定することとする。

◎週当たり平日 1 日以上、週休日 1 日以上の休養日を設けること。

[具体的な運用について]

- ① 各部活動の状況により、練習場所、公式戦やコンクール等の時期等の条件が異なるため、統一的、定期的な休養日をとることは難しいことから、別の日に振り替えることや半日を単位とすることも可能となる。
- ② 年間 52 週と考え、平日及び週休日 52 日以上に相当する休養日を設定する。その際、ひと月のうち、平日及び週休日にそれぞれ少なくとも 1 日（週休日は半日×2 日も可）以上の休養日を設けるようにする。
- ③ 本校の学習指導・部活指導・学校経営等のバランスを踏まえ、それぞれのニーズと実態に則した休養日等を設けるようにする。

[52日の考え方]

- ① 平日は放課後の部活動が行われない日を1日とする。
- ② 週休日（祭日等を含む）は、全日の休養日を1日とし、半日の休養日を0.5日とする。
- ③ 長期休業中は、生徒が終日活動できることから、週休日と同様の扱いとする。

4. 生徒のニーズを踏まえた活動環境の整備

(1) 生徒のニーズを踏まえた部活動の設置

部活動は、生徒一人ひとり興味・関心に応じて行われるものであることから、「技能を高めたい」、「良い結果を出したい」、「体力を向上させたい」、「有意義な時間を過ごしたい」、「仲の良い友達を作りたい」など、生徒の様々な目的や目標に応じた活動の場を設定することが大切である。

本校においては、「競技力・表現力向上志向」、「リクリエーション志向」、「健康志向」、「複数部活動志向」など多様な選択肢の部活動を設定するなど、大会やコンクールの結果や成績等を追及するだけでなく、生涯にわたってスポーツや文化的な活動に親しむ基礎を培うことや生徒の心身における調和のとれた発達を促すことができるよう活動環境の整備に努めることとする。

※令和元年度より、スポーツ整形としてメディカル・フィジカルケアのため、ザ・タワーくまさん整形外科（黒坂医院長）本校校医を迎えサポートを行う。

(2) 地域との連携等

本校では、生徒のスポーツ・文化的な活動の環境の充実の観点から、学校や地域の実態に応じて、地域の関係団体との連携、保護者の理解と協力、民間事業者の活用等による、学校と地域が共に子供を育てるという視点に立った、学校と地域が協働・融合した形での地域における環境整備に努めることとする。

また、学校と地域・保護者が共に子どもの健全な成長のための教育、スポーツ・文化的な活動の環境の充実を支援するパートナーという考え方のもとで、こうした取組を推進することについて、保護者の理解と協力を促すこととする。

5. 取組の検証

本指針に示す本校部活動に係わる取組については、平成30年度中に取組状況を把握し、検証するとともにその結果をふまえて、必要な改善を図っていくものとする。

6. 働き方改革の一環としての教職員（顧問）の勤務の軽減について

- 健康面のバランス
- 教科指導とのバランス
- 自己の生活面等とのバランス

等々のバランスのとれた働き方を実施していくために

1. 進路指導アドバイザー ・ 部活動指導アドバイザー 等を採用し、配置する

- ことにより、教職員の心身ともに充実した教員生活を過ごせるように努める。
2. 本校校医 ザ・タワーくまさん整形外科より、部活動顧問の精神面でのケアー及び部活動生徒のケアーを行う。

7. 見直し

この方針は、必要に応じて見直しを行う。

附則 この方針は、平成 30 年度 10 月 29 日から施行する。

附則 この方針は、平成 31 年 3 月 29 日から施行する。

附則 この方針は、令和元年 6 月 1 日から施行する。